

第1学年 国語

1. 教科の目標

- ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に着けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- ・筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。
- ・言葉が持つ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2. 評価の観点と内容

学習の到達目標	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしつつ、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
評価方法	<授業> 授業への取り組み、振り返りシート <提出物> ワーク、漢字学習、作文・レポート・鑑賞文等の作品 <テスト> 定期テスト、単元テスト、小テスト（漢字・文法）、パフォーマンステスト（朗読、スピーチ）	

3. 学習の手引き

使用教材	教科書：国語・書写（光村図書） 副教材：国語スイッチ、漢字の学習、書き方レンジャー	
学習方法	学校	①授業の準備をしっかりとしましょう。（忘れ物がないように。） ②人の発表をよく聞き、積極的に自分の意見を発表しましょう。 ③ノートは「授業内容」だけでなく、「予習」でも活用してください。ノートは必ず、縦書きにしましょう。授業中の設問では、黒板の答えを写すだけでなく自分の考えもノートに書いておきましょう。 ④漢字テストは1週間に1回行います。出題範囲の漢字をしっかりと確認しておきましょう。 ⑤提出物は期限を守って提出しましょう。
	家庭	①語句・意味調べ、漢字の読み書き、本読みなどを行い、しっかり予習しよう。 ②教科書・ノートの見直し、ワークを繰り返し行うなど授業の復習をし、自分で考えることができるようにしておきましょう。 ③できなかったところは、解説を読んで、「なぜ違うのか」を理解しよう。授業で取り組んだ内容を中心に学習し、定期テストに備えよう。

4. 年間計画

学期	月	単元名	目標・評価の観点
	4月	<ul style="list-style-type: none"> 朝のリラレー 野原はうたう 	<ul style="list-style-type: none"> 詩の特徴を生かして音読することができる。 情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫することができる。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> シンジュン 情報を整理して書こう 漢字1（漢字の組み立てと部首） 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して、読み取ることができる。 場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えることができる。 集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理することができる。 目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明の文章の構成を理解することができる。 漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べることができる。

1 学期	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイコンは大きな根？ ・ちょっと立ち止まって ・話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する ・〔文法1〕言葉のまとまり 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中で比較がどのように使われているかを理解することができる。 ・「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解することができる。 ・筆者の主張と事例との関係を理解することができる。 ・序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えることができる。 ・声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチすることができる。 ・聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫することができる。 ・文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解することができる。
	7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の世界 ・比喩で広がる言葉の世界 ・言葉1（指示する語句と接続する語句） ・硬筆、毛筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を増やすことができる。 ・表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書くことができる。 ・文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解することができる。 ・各段落の役割を理解し、要旨を捉えることができる。 ・指示する語句と接続する語句の役割を理解することができる。 ・楷書と仮名について筆遣いや字形、文字の大きさや配列に気を付けて書くことができる。
2 学期	9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・大人になれなかった弟たちに… ・星の花が降るころに 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解することができる。 ・描写に着目して、登場人物の行動や心情の変化を捉えることができる。 ・様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どのような情景や気持ちをたとえているのかを理解することができる。 ・場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み取ることができる。
	10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉2（方言と共通語） ・漢字2（漢字の音訓） ・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ ・根拠を示して説明しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通語と方言の役割や特徴について理解することができる。 ・漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短文を作ったりすることができる。 ・筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて、理解することができる。 ・筆者の意見と、それを支える根拠との関係を捉えることができる。 ・情報を整理し、自分の考えを裏付ける資料やデータを選び、引用することができる。 ・自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考え工夫することができる。
	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・大阿蘇 ・蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から ・今に生きる言葉 故事成語 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の言葉がどのように使われているか考えて、朗読することができる。 ・繰り返しの表現や繰り返しながら変化している表現などに着目しながら考えることができる。 ・音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解することができる。 ・「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えることができる。 ・音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解することができる。 ・「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味に使われるようになったか説明することができる。
	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「不便」の価値を見つめ直す ・〔文法2〕文の組み立て ・毛筆、硬筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿って必要な情報を結び付け、要約することができる。 ・立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見をまとめて書くことができる。 ・「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」について、理解することができる。 ・行書の主な特徴と筆使いを理解し、書くことができる。
3 学期	1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の日の思い出 ・〔文法3〕単語の性質 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目し理解することができる。 ・時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめることができる。 ・「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解することができる。
	2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・構成や描写を工夫して書こう ・言葉3（さまざまな表現技法） ・漢字3（漢字の成り立ち） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使うことができる。 ・書きたしや結び、出来事を、言葉を吟味し、描写を工夫して書くことができる。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解することができる。 ・漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べることができる。
	3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらの はなびら 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩に用いられている表現の技法を理解し使うことができる。 ・詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを明確にすることができる。